

2008 年度

科目名	対象学科・学年 教育教福 4 回生	担当者
ゼミナールⅡ		農野 寛治
授業テーマ 卒業研究論文への取り組み		
授業の概要と目標 各種の専門科目を履修し、さまざまな社会事象を「教育」や「福祉」から見て考える力（価値、理念、思考枠）と対応技術の基礎（知識、方法論）が習得されつつあると思います。これらに基づいて、自身で設定した「設問」を解き明かしながら、自己が学んだことの集大成を証しとして残す、これが卒業研究論文だと考えています。そのお手伝いをさせていただくというのが私の役割となります。		
評価方法 取り組みへの意欲と姿勢、問題設定のあり方、論文の構成力、研究の方法、分析力、表現力+αとしてのオリジナリティ…等によって評価します。		
テキスト 特に指定しない。	著者	出版社
参考書 要望に応じて、適宜紹介します。	著者	出版社
授業スケジュール・内容		
1. オリエンテーション 2. 研究テーマの設定① 3. 研究テーマの設定② 4. 研究テーマの設定③ 5. 研究過程の立案① 6. 研究過程の立案② 7. 基本文献の検索と資料収集① 8. 基本文献の検索と資料収集② 9. 基本文献の検索と資料収集③ 10. 論文の基本構想を立てる① 11. 論文の基本構想を立てる② 12. 卒業研究に向けて・個人発表① 13. 卒業研究に向けて・個人発表② 14. 卒業研究に向けて・個人発表③ 15. 卒業研究に向けて・個人発表④ 16. 全体指導・「起」 17. 個別指導 18. 個別指導 19. 個別指導 20. 全体指導・「承・転」 21. 個別指導 22. 個別指導 23. 個別指導 24. 個別指導 25. 全体指導・「結」 26. 個別指導 27. 個別指導 28. 個別指導 29. 個別指導 30. 全体指導・「発表会」	ゼミ生へのアドバイス及び忠告 ・フィールド調査等を伴うものは、早期に実施できるように計画を立てること。 ・まず、問題意識を明確に、そしてテーマは狭く具体的に。 ・集めた資料から、論じる対象をきちんと抽出し論述すること。 ・書きながら考える。繰り返し書き直す。書き足す。この作業を積み上げる。 ・卒業論文は長距離走。時間をかけて持続的な取り組みをする。 ・なるべく早く取りかかる。 まだ大丈夫は禁物。 ・安易にインターネットに頼らない。 原典にあたる。 ・個別指導は、ピアノのレッスンと同じ。 何もしてこなければ、ノーリターン。	